中央公民館だより

平成 29 年 1 月 1 日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

生涯学習課　年頭のご挨拶

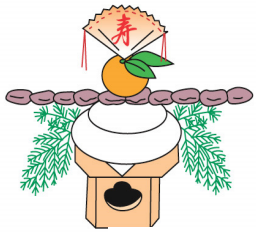
三原市教育委員会 生涯学習課長　磯谷 吉彦

新年あけましておめでとうございます。

中央公民館のご利用者のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて，みなさまご承知のように，公民館は戦後のわが国の社会教育振興のために大きな役割を担ってきました。しかし，公民館の役割と機能は時代と共に進化，変化しています。昭和２０年代は復興，地域振興，生活の安定，文化振興の場としての役割を務め，昭和６０年代頃からは「生涯学習」の振興に資してまいりました。このように　それぞれの時代に応じて形態や役割を変化させているのが公民館なのです。

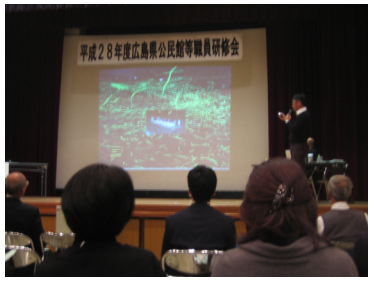
今日は少子高齢化や人口減少の急速な進展という社会構造や地域社会の大きな変革の中，地域情報の提供や地域の実情に合った機能提供が必要とされています。これからの公民館やコミュニティセンターは，社会教育や生涯学習の振興の充実を図ることはもちろんのこと，社会の要請に的確に対応し，地域教育力の向上や，地域づくり，人づくりの要としての役割が一層重要となってまいります。そこで私どもは，生涯学習を通して地域の人々の結びつきを強め，さらには地域の元気や活力を引き出していく公民館，コミュニティセンターを目指してまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



平成 28 年度広島県公民館等職員研修会概要

本研修会は、公民館等職員の専門性の向上を図るため、毎年実施されています。今年度の東部会場は、去る 12 月 1 日、府中市上下町民会館で開催されました。

午前中は、２件の事例発表がありました。



○北広島町では、町を挙げて若者の定住を促すため、子どもたちに地元の魅力を体感させたり、大人の一生懸命な姿を知らせたり、町内の子どもたちの仲間意識を醸成したりする施策を講じています。学校と連携し、はやし田植え、木材の伐採、川遊び、民泊、そば打ち、茅ぶき等、多彩な自然体験や地元との交流活動がメインです。将来、サケが遡上するように子どもたちに地元に帰って来てほしいという願いが込められています。

○下関市豊田町は、日本有数のホタルの里です。これを観光資源にホタル舟を運航、様々なイベントでホタル祭りを実施し、多くの観光客を誘致しています。さらには次代を担う子どもたちにも地元の良さを認識してもらおうと、感性を大切にしながら、郷土愛を育んでいます。具体的には、地元温泉体験入浴、子どもたちによるおもてなしを追求した観光グッズの開発・情報誌への地元紹介等。地域を素材とした心の教育とのことです。

午後は、３分科会に分かれてグループ討議を行いました。それぞれ『生涯学習・社会教育の基礎』『学習プログラムのリデザイン』『地域リーダーの支援』をテーマに他市町の職員と意見を交流し、視野を拡げました。

研修に一貫していたのは、活力ある地域づくりのために公民館等が何をなすべきか、という模索のあり方でした。

三原版“ブラタモリ”講座開講

『ブラタモリ』は、タモリが古地図を参考にして各地の街を散策し、歴史の痕跡を見出して軽妙なトークでその土地の歴史を味わう、というＮＨＫの探索番組です。大変好調で高視聴率を上げているようです。

中央公民館でも三原版“ブラタモリ”講座を２講実施しました。１講は、去る 11 月 19 日、主催講座『「三原学」事始め』で城下町の痕跡が残る西町界隈を散策した後、“三原の縮景園”とも称され、国の登録記念物に指定されている舩木氏庭園の作庭の妙味を鑑賞しました。

もう１講は、12 月４日、体験講座『“三原築城 450 年”さきがけ講座③　毛利「中国行程記」西国街道歩き旅』で、三原城下（三原駅隆景広場）から本郷宿本陣跡までの 13km を毛利藩の街道絵地図を手がかりに踏破しました。

瀬戸内三原築城 450 年事業を来年に控え、市民の皆様に歴史認識を新たにしていただければ幸い、と願っています。

人形劇創造講座卒業劇団による公演報告 in こいずみ放課後子ども教室

人形劇団【にゃーご】が前回のみはら放課後子ども教室の公演に引き続き、12 月 2 日にこいずみ放課後子ども教室にて出前公演しました。演じる事に大分慣れてこられた皆さんの熱気溢れる演技に、子ども達は吸い込まれるように魅入っていました。

みはら・うまいもの市にて読み語り＆人形劇公演 in 三原幼稚園

去る昨年の 11 月 20 日に旧三原幼稚園にてうまいもの市が立ちました。三原のうまいものを集めたブースあり、三原で活躍する作家さんの雑貨ブースあり、プチワークショップブースあり、Jazz ブースあり多くの方で賑わいました。このイベントは三原観光協会主催で、場所を明眞寺の協力で、出展者以外にボランティアで広島修道大学・川瀬ゼミの学生方が協力し開催されました。その一角、『わくわく・どきどき絵本であそぼう』のブースにて、読み語りと人形劇を公演しました。芝生の上に並べられた、木で出来た小さないすが、まるで絵本の「どうぞのいす」みたいで、可愛らしくて、大感激しました。読み語りが始まると、どこからともなく湧いてくるような親子連れで、どうぞのいすはあっという間に満員御礼！レッドスネイクカモンのコーナーは、大爆笑でした。

編集後記

年末年始いかがお過ごしでしたか。お餅はたくさん召し上がりましたか?

今回はお餅にまつわるお話です。お米を主食とする農耕文化が根付いている日本では、お米には特別な力が宿ると信じられてきました。特に、お餅はお米を凝縮して作る為、新しく生命を更新再生する特異な力が含まれると信じられていました。縁起物のお餅は、お祭り、結婚、出産、人生の節目のおめでたい特別な日に食しお祝いしました。子どもの初誕生の日に、一升餅をついて家族皆でお祝いするのは、一生食べ物に困らないように、これからの一生が健やかであるように、一升と一生（人生）をかけて成長を祝う風習として残ったようです。お正月に皆でお餅を頂くのは、年の初めにそれぞれの誕生祝いも兼ねてお祝いしたようです。面白いことに、背負い餅の風習もある所と無い所があるようです。

最近では、一升分の紅白の小餅をリュックに入れて背負うように形体は変化しつつも、風習は残っていくようです。

お問い合わせ・ご相談は、三原市中央公民館(TEL0848-64-2137　FAX64-0137)　生涯学習相談員　中山・村上まで